2021 年度　健診センター　業務報告

健診センター長
日本人間ドック学会　指導医・専門医、人間ドック健診情報管理指導士
志田　勝義

1　2021 年度総括

2021 年度の総稼働件数は 4,848 件で前年比 838 件の減少がみられます。
内訳は、半日ドック 3,295 件、脳ドック 145 件、一般健診 881 件、生活習慣病健診 527 件です。
総稼働件数の減少の原因は一般健診の減少と考えられ、半日ドック、脳ドック、生活習慣病健診は全て前年を上回りました。これは健診室ラウンジで健診者が密になることを避けるため、ほぼ 1 年を通して通常の定数の半数で運営したことによるものと思われます。半日ドック、脳ドック、生活習慣病健診が増加した要因としては、2020 年度に比して業務停止となった期間が短かったことが要因と思われます。

2　人員

脳神経外科/院長	星　誠一郎
内科(一般、消化器)/健診センター長	志田　勝義
脳神経外科	西山　裕孝

3　ドック健診実績

精密検査指示数は、上部消化管内視鏡検査 60/2,747 人(2.2%)、上部消化管 X 線造影検査 121/767 人(15.8%)、心電図 227/5,175 人(4.4%)、胸部 X 線検査 193/5,102 人(3.8%)、胸部 CT 検査 3/112 人(2.7%)、腹部超音波検査 86/3,366 人(2.6%)、マンモグラフィー39/415 人(9.4%)、乳腺超音波検査 18/787 人(2.3%)、子宮頸部細胞診 7/701 人(1.0%)です。
追跡することが出来た精密検査の結果での癌診断数は、胃癌 3 人、乳癌 3 人、前立腺癌 3 人、大腸癌 2 人、食道癌 1 人、膵臓癌 1 人となりました。

諸検査数動向をみますと、半日ドックの件数の増加に伴い各検査数も増加しております。上部消化管内視鏡検査及び上部消化管 X 線造影検査はともに増加しておりますが、造影検査の 20 件に対し、内視鏡検査は 295 件と大きく増加しております。この増加幅は半日ドックの増加数を上回っており、上部消化管の評価方法にて内視鏡を選ばれた受診者が多かったことを示しております。このことはドック健診において内視鏡検査の有用性が浸透してきたこともあるかと思われますが、当院内視鏡センタースタッフの努力によって質の高い内視鏡検査を提供できていることも要因と思われます。これは受診後に行っているアンケートにおいて、当院の内視鏡検査に対しての評価が高いことより推察されます。今後も現状に甘んじることなく、正確で、且つ受診者に優しい検査を提供してまいります。
昨年に引き続く形となっておりますが、当院の上部消化管 X 線造影検査における精密検査指示率は 15.8%となりました。これは日本人間ドック学会が推奨している 15%未満を超える結果となっています。この理由は、学会の判定基準では慢性胃炎は C 判定となりますが、当院では粘膜萎縮の存在が明らかに疑われる慢性胃炎(萎縮性胃炎)に関しては、内視鏡による画像診断の必要性およびピロリ菌感染リスクを鑑みて精密検査指示とさせていただいているためと思われます。

当院の精密検査指示率が学会の推奨基準を超えているということに関しては、2020 年に人間ドック健診施設機能評価受診の際に、医師サーベイヤーの先生との面談にて理由と意図を十分に説明させていただいて、ご了承をいただいております。
引き続き当院といたしましては、将来的に胃癌発症リスクが高いと思われる症例を積極的に内視鏡検査に誘導していくことにより、胃癌撲滅へ寄与していきたいと思います。

2021 年度の追跡することの出来た精密検査の結果での癌診断数は胃癌が 3 人、大腸癌が 2 人でした。全症例が早期の状況での発見であり、全症例が当院消化器科にて内視鏡的粘膜切開剥離術(ESD)、内視鏡的粘膜切除術(EMR)にて開腹手術をうけることなく治療を終了しております。
また、当院では治療まで完結できない領域の癌腫においても、後日受診時の当院での精査にて確定診断が得られ、速やかなる紹介の後に適切な治療をお受けいただいたという報告をいただいております。
このことは以前より当院健診センターの基本方針とさせていただいております「健診センターの使命である早期発見にとどまることなく早期治療にまでつなげてこそ二次予防機関の役割である」ということが実践できているものと考えております。今後も継続して取り組んで行きたいと思います。

4　2022 年度の方針

当院では、結果判定において要精査・要治療の項目を有し、且つ悪性疾患が疑われるものに関しては結果表とは別に紹介状と画像ディスクを添付して結果をお戻ししております。これは当院健診センターの基本方針を遂行するための対策として行っているものです。そしてその返信をもって受診していただいたものと判断し、データをとっておりましたが、2020 年度より未返信数が発行数の過半数を超える事態となり、2021 年度はさらに増加して未返信率が 54.0%へと上昇いたしました。必ずしも紹介状を発行したすべての症例が悪性疾患であるということはないと思われますが、早期発見の機会を逸しているという懸念も浮かんでまいります。先に受けました人間ドック健診施設機能評価の評価項目におきましても、ドック健診を受けた後のフォローアップ体制の構築が盛り込まれ、且つ重要視されており、このことは前述したような懸念の払拭を狙ったものと考えます。機能評価審査受診時には当院の改善点などの助言もいただいており、前述した結果をふまえますと、当院のドック健診受診後の既存のフォローアップ体制の改善と新たなるフォローアップ体制の確立は急務と考えられます。未受診率の上昇した要因の分析を行いながら、新しいフォローアップ体制の確立を目指してまいります。

当院健診センターは、引き続き、徹底した感染予防策を行いながら、今後も受診者の皆様に健康で、且つ実りある人生を提供するために、職員一同努力していく所存です。